

2021-2022
WINTER LOGOS

冬ロゴス



TAKE FREE

ポケットブック

冬キャンプABC



2021-2022
WINTER LOGOS

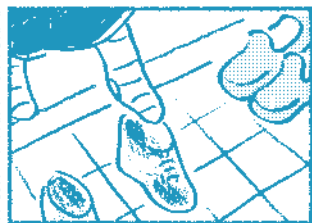
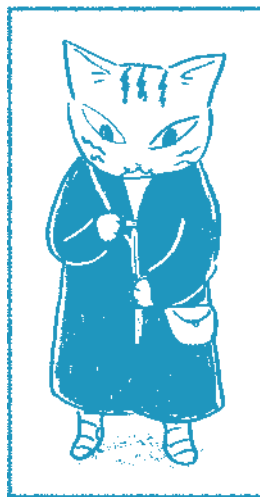
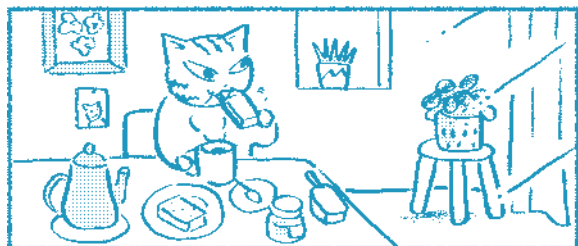
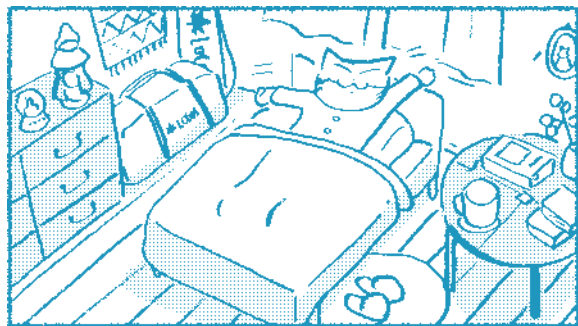
冬ロゴス

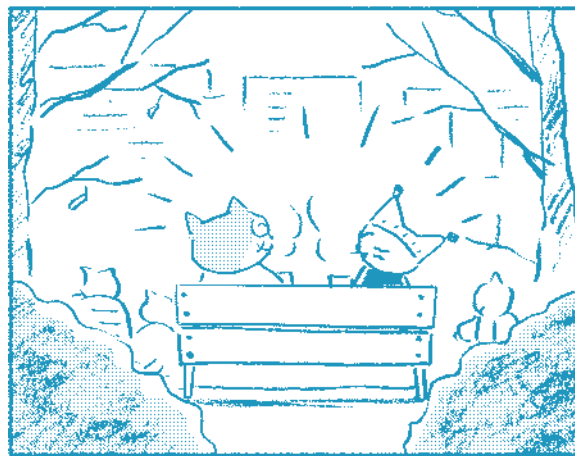
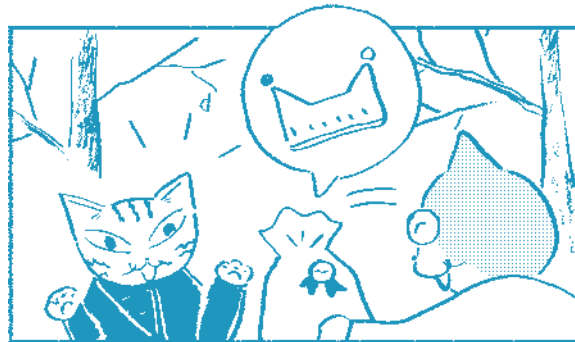
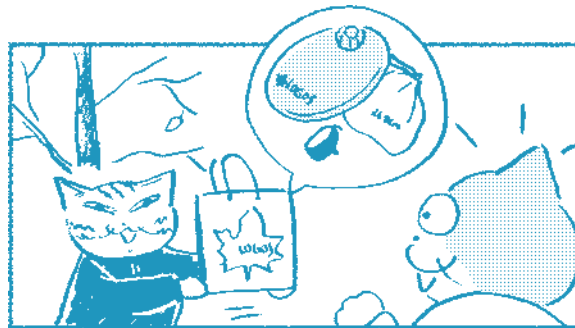
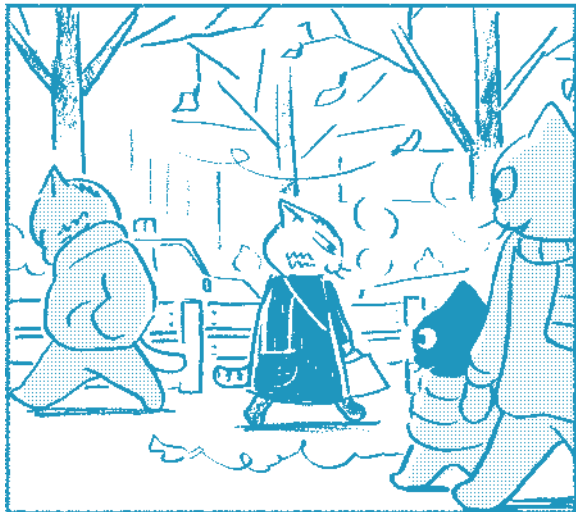


ポケットブック



ABC





END.

寒いから、あたたかいと覚びることがうれしい。

寒いから、見るこたができる景色がある。

ほかの季節とは違う楽しさが、冬キャンプにはあります。

その魅力を伝えるために、

今年は例年の「冬ロゴス」からサイズをぐっと小さくし、

ページ数をぐっと増やしたポケットサイズの本を作りました。

AからZまでのキーワードで、

冬キャンプの豆知識から、気軽な読み物まで。

今年冬キャンプに挑戦する人も、

いつか試したい人にも手にとってほしい、

保存版の手引書です。

冬キャンプ
ABC

2021-2022 WINTER LOGOS



Animal

冬の動物たち



ライチョウ

氷河期から日本に生息する鳥で、“生きた化石”と呼ばれています。雪の中に潜っていることが多く、空を飛ぶことはまれで、北アルプスや南アルプスなど、標高の高い場所に暮らしています。冬になると真っ白な羽毛に生え変わります。

イヌワシ

高い飛翔能力で“空の王者”と呼ばれています。全国に幅広く生息しており、冬には崖で巣作りする様子を見ることができます。



ホンドオコジョ

ネズミを捕らえるのに適した細長い体が特徴です。好奇心旺盛で、人に近づいてくることもあります。東北から中部地方にかけて生息しています。



ニホンカモシカ

短い角が特徴です。全国に分布し、急斜面のある森などでまれに遭遇できます。実はシカではなく、ウシの仲間です。



ニホンノウサギ

時速80kmで走れる強い脚を持つウサギで、雪が降る地域では冬の間、体毛が白色に変化します。全国の野山で夜に草を食べる姿を見かけることもあります。



Basic

冬キャンプの基礎知識



Q 冬キャンプの 服装は？

A
温度調節しやすい
「重ね着スタイル」を

適度にあたたかい状態を保つため、高機能な服を重ね着すると快適です。たとえば吸水速乾性の高い肌着の上から、保温性にすぐれたインナーダウンと、風を遮るシェルジャケットを羽織るといった具合。汗をかくほど着込むのは体を冷やすのでNGです。気温や時間帯に応じて着脱して体温を調節しましょう。

Q 冬キャンプに 必要なアイテムは？

A
夜間の保温グッズは
必須です

用心すべきは気温がぐんぐん下がる夜間です。通常のキャンプアイテムに加えてあたたかい毛布や地面の冷気を遮断する分厚いマット、保温性にすぐれた寝袋を用意して対策しましょう。

Q 初心者でも 安心なキャンプ場 選びのコツは？

A
「電源付きサイト」が
おすすめです

一番のネックは寒さなので、その心配が極力いらない環境を選ぶのがポイントです。電源付きサイトのキャンプ場なら、LOGOSの「ヒートユニット」シリーズに電気を供給するモバイルバッテリーのフル充電が可能です。また家族キャンプの場合は、子供の急なトイレに対応できるよう、洋式トイレが複数あるかもチェックしましょう。

Q たき火の あと片付けは？

A
薪を燃やし尽くしましょう

燃え尽きたらキャンプ場の灰捨て場に捨てるか、持ち帰りましょう。燃え尽きるのは時間がかかるので、退出時間から逆算して処理を始めるのがコツ。薪を入れてフタを閉めれば消火できる火消し壺があると便利です。

Q キャンプ場の 基本ルールが 知りたい！

A
キャンパー必読の
「5箇条」を守るべし

- ①他人のキャンプサイトは横切らないようにしましょう。
- ②炊事場などの共有スペースはきれいに使いましょう。
- ③たき火にはたき火台シートとたき火台を使いましょう。
- ④就寝時間を過ぎたら灯りを消して静かにしましょう。
- ⑤ゴミ捨てはキャンプ場の分別方法に従いましょう。

Q 冬キャンプ 初心者にとって いちばん大事な心得は？

A
無理をしすぎないこと

冬ならではの魅力を味わえる冬キャンプですが、ほかの季節と比べてハードルが高いのは確か。キャンプ泊の前にデイキャンプを試したり、最初はコテージを借りてみたりと、無理せずじょじょに慣れていきましょう。

Child

子供とキャンプ

子供はいつからキャンプが可能？ その答えは「親次第で、いつからでも」。親のキャンプ経験の有無や子供の性格を考えながら、無理のない範囲から始めるのがベストです。ただし、つきっきりで見なくてはいけない年齢だとテントの設営や撤収が大変なのと、子供は幼いほど体温調節がうまくできず、汗をよくかくため、着替えの服が多くなります。寒くてシュラフにもぐっても、すぐに暑がって出たがる…といったことも起こります。なお、冬キャンプは子供の成長を見計らいながら、デイキャンプから試してみるのがおすすめです。

0
〜
2
歳



生まれてすぐはおむつ、おっぱい…とやるのがたくさん。夜泣きをする年齢は、テント泊もハラハラしがちです。デイキャンプやコテージ泊にするか、初心者の場合は無理にトライせず、成長を待つのもあります。

3
〜
4
歳



多くの子供がキャンプを楽しむようになります。知的好奇心が増してくるため、一緒にベグ打ちをしたり、たき火の薪を組むのも◎。[ミッションを作ろう]も参考に、遊び感覚でキャンプの基本を覚えましょう。



ミッションを作ろう

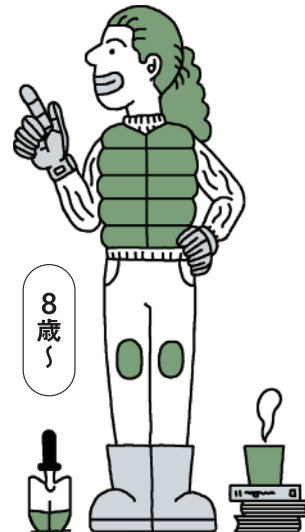
小枝拾い 水くみ 薪割り 寝袋運び

野菜洗い 食器並べ マット敷き



5
〜
7
歳

テントを一緒に建てたり、テーブルを組み立てたりといった共同作業ができるように。大人がそばで見守ってれば、着火や簡単な調理もできます。十分にキャンプに慣れていれば、冬キャンプへの挑戦も。



8
歳
〜

大人とほぼ同じことができるように。子供はこのくらいの年齢から「のんびりする」という感覚を覚えるため、駆けまわる子もいれば、チェアでゆったり本を読む子も。子供がやりたい遊びを一緒に楽しみましょう。